



# 学習院広報

## 第65号

平成13年12月1日

特集 日本の文化を学ぶ！女子大学の留学生

## 学習院の教育

どこの学校でもその教育の理想なり目標なりを持つてその為の努力をしておられる筈です。少し固い話ですが、学習院がどのような教育をしようとしているかを校規や学則その他の文書や語り伝え等から考えたいと思います。無論、教育においては文書になったものがどうあると、実際に教育を行う人々の理想、情熱、教育技術等が大切である訳ですが、学校としてどのような教育を目指しているかははっきりさせておく必要があります。

どこの学校でも同じでしょうが、学習院における教育の方向を示す文書を考えますと、先ず日本の学校として教育基本法、学校教育法に基づくのは当然ですが、次に学習院校規があつて、これには「教育基本法及び学校教育法に基づき、学習院学則の定めるところにより、幼児の保育から大学教育にわたつて、一貫した教育を行うこと」

院長 島津久厚

### おもな内容

学習院の教育	①
日本の文化を学ぶ！	
女子大学の留学生	③
学習院野球部の歴史	⑥
イトトン・サマースクール	⑨
初等科・幼稚園の学校週五日制	⑫
平成14年度納付金について	⑬
平成十三年度主要国家試験合格者	
平成十四年度一般入試の募集について	⑮
学長就任にあつて 永田良昭	⑯
学習院ニユース	⑳



# 特集

## 日本の文化を学ぶ！ 女子大学の留学生

国際文化交流学部 日本文化学科四年

ナイエール・マフシード

(国費留学生)



学習院の皆様、はじめまして！学習院女子大学の留学生の一人、ナイエール・

マフシードと申します。母国はイランで、現在は日本文化を専攻し、あと半年で卒業する予定です。

皆様ご存知かもしれませんが、学習院女子大学では、様々な国からの留学生が数多く在学し、その数が今七十名にもなっています。その中には私のように、四年間すなわち卒業までいる留学生もいれば、交換留学生として短期間学んでいる学生も数多くいます。

日本に来てもうすぐ四年になります。来日してすぐ大学に入学した私は、自分の日本での生活は、学習院女子大学で始まったともいえます。一年生の時、目白キャンパスの隣にある留学生寮で暮らしました。こ

の寮では、中国や韓国、台湾などをはじめとして、ロシアやチエコからの留学生も住んでいました。寮での生活がとても楽しかったです。

日本語補習という授業の宿題として、毎週放送されるテレビドラマ「渡る世間は鬼ばかり」を見て、それについての感想文を書かなければなりませんでした。私はチエコから来ていたカトカと一緒に寮の談話室でこのドラマを見て、感想文を書いたのを今でもよく思い出します。日本語だけの勉強ではなく、日本人の普段の生活と馴染ませてくれるのが日本語補習の先生の目的だったのでしょうか。一年生の一年間はあつという間に終わり、私たちは寮を出て別々の場所に住み始めましたが、今でも寮の前を通るととても懐かしく感じられます。

日本語が上手ではなかった私は、授業で困ったことが沢山ありました。しかし、日本人の友達のお陰で無事に乗り越えられました。今でも日本人の友達の助けに感謝しています。

色々な授業の中で「香道」がとても興味深かったです。親友のジェニー(ドイツからの留学生)と一緒に受けたこの科目を忘れられません。私とジェニーが香りの区別



ができず、授業中このような会話をしていました。「ジェニー、これは何の香り？」と私が聞き、ジェニーが「わからないけど、お寺の匂い！」。これが毎回のように続いていましたが、最後の授業では私はなんと全問題を正しく当てたのです。今でもびつくりです。香道の素晴らしさには感動させられました。ぜひ香道に関する本を買って、イランに持ちかえりたいです。

私達留学生は、留学生センターのおかげで毎年様々な見学や体験ができるようになっていきます。今まで、日光や箱根、富士山の旅行に出かけ、それぞれの素晴らしさを身を持って体験することができました。着物の着付けも体験しました。写真を撮って、国に沢山送りました。十二単や雅楽、相撲や歌舞伎の鑑賞にも連れて行ってもらいました。どうですか、日本人の方々？これらの中で幾つ体験なさったことがありますか？やはり私たち留学生は恵まれています。日本人さえ体験していないことを経験しているからです。

思い出や学んだことを書き出すときりがありません。もうすぐ学習院女子大学の第一期卒業生ともなる同級の留学生にとっても、この四年間は私と同じように貴重な時

間だったことでしょう。この四年間の間に、韓国からのベックさん、イタリアからのヴェロニカさん、中国の呂さんは結婚し、赤ちゃんにも恵まれました。家庭を持ちながらも、一生懸命熱心に勉強する彼女達を見て、私ももつとがんばらないと、いつも励まされます。

帰国していたジェニーやカトカも、もう一度来日しました。現在カトカは学習院大学で研究生として勉強し、ジェニーは交換留学生としてこれから一年間東京大学で勉強する計画を立てています。私も学習院女子大学を卒業した後、カナダの大学院で国際関係を勉強する予定です。将来はイランに帰って、もちろん日本語も生かしながら働きたいです。カナダへの留学を決意したのは、やはり日本の良い留学体験があったからこそではないかと思えます。

これまで、ジェニーやカトカをはじめ他の交換留学生を迎えてきた私は、今度は彼女たちのように迎えられる側になるのです。しかし、いつかまた絶対に日本に戻ると信じています。彼女たちが戻ってきたように！

## 国際文化交流学部 日本文化学科二年

### チェシルコフスカ・アリツィア

(協定留学生：ポーランド、ワルシャワ大学)



「よし、この瞬間が私の生活の新しいスタートだ。」と思いつながら飛行機から降りて、日本に第一歩を歩きました。これは六カ月前のことです。その日、初めてアジアに来たポーランド人の私はちよつと複雑な気持ちを抱いていました。しかし、半年間日本という国で留学生としての生活を送った私は、日本への憧れがさらに増し、満足しています。

来日した頃、桜の花が咲き誇っていました。初めて満開の桜を見てとても感動しました。特に私の新しい大学、つまり学習院女子大学の桜並木は素晴らしかったです。こんなに美しい花に感動しながら、新生活に入ったことを嬉しく感じました。しかし、同時に、花の命は、人生と同じく短いということも分かりました。したがって命のあの限りは色々なことを経験したほうがいい

と思いました。そのためにも日本に留学できて、とても嬉しいです。

留学とは何かということをよく納得しない学生がときどき不満を述べると聞きました。どうしても自分の留学を大成功させるために、前もって色々考えておきました。やはり、語学の勉強も大事ですが、語学の勉強だけでなく、その言語をとおして外国文化を学ぶことです。留学の基本はココにあると思います。

もう一つ留学のおかげで分かったことを皆様に伝えたいです。人の生活習慣と文化も国によって違うから、異文化を学ぶ留学生たちは相違点を探します。どうしてもそういう考え方に私は賛成できません。文化が異なっても、そのことを理解するために共通点を探しましょう。どこでも、いつでも、人々には一つの大きな共通点があります。その点に基づいて、生活すれば文化交流を目指す留学は大成功を得られます。色々な友達ができます。人生を楽観的にみることができません。それは心が通うことです。これを忘れないで、今まで留学をがんばってききました。

学習院女子大学は留学生のために色々な活動や指導をしてくださるので勉強は思っ

たよりスムーズです。御立派な先生たちは自分の値踏みのできない知識を私たちに分かりやすく伝えてくださるからです。大学の科目の範囲も広いので、自分の専門を中心として、好きな科目を選べました。まず日本語のコースに参加して、大分日本語が進歩しました。言語学面白いゼミも取りました。そして、他の大学にはない伝統文化実習の中から、書道と十二単と茶道のクラスを選んで、日本の文化に触れました。学習院女子大学の留学生センターは勉強の面だけでなく、生活面でも、いつも相談に乗ってもらい、何度も助かりました。だから大学を楽しみながら、色々な文化の行事に参加したり、日本人と一緒に旅行や見物をしたり、外食したりして、日本の文化だけでなく、日本人の生活を学びました。

また、大学にも、住んでいる寮にも世界中からの留学生が大勢いますので、豊かな国際交流ができます。ヨーロッパから来た私にとって、アジアの学生と共に暮らすことはまったくの異文化に触れることです。また、同じヨーロッパでも国が違えばそれぞれの歴史がありますから、それらを分かり合い、学ぶことができるのは素晴らしい環境といえます。

今まで初めて見た、初めて経験した、初めて食べた物がたくさんあります。その中から一番よかったことを報告します。東京を探検してみると、好きなところをいくつも見つけました。地震や台風さえなかったら、賑やかな新宿、静かな上野公園や、伝統を誇る浅草などによく出かけます。東京は世界でも有数の巨大都市で日本の文化、経済、政治などあらゆる活動の中心となっていますから、毎日楽しいです。夏は歌舞伎やバレエを見たり、花火に行ったり、カラオケをしたりしました。もっと足を伸ばして、ディズニールランドにも、そして日光、長野、日本三景の宮島、熊本にも旅行し、種子島にも行って、太平洋で泳ぐ夢もやっと叶えました。日本の食生活も気に入って、よくバクバク一番好きなお寿司と納豆を食べます。

日本に住んで、日本の文化と生活つまり衣・食・習慣・社会・自然を知れば知るほど好きになります。だからこの夢のような留学はもう思い出だけの中にかすんでしまっただけでなく、ポージランド帰国後も第二の故郷日本を心に刻みます。このことよって将来は日本とポージランドのかけ橋になれることを願って、毎日喜んで努力して頑張っています。

# 栄光の歴史に 映えて

学習院野球部OB会実行委員長

奥川 大介

(昭和四十四年卒)

学習院野球部は今年で創部百十二周年を迎えます。

米国人教師によって野球が日本に紹介された明治の初期から、学習院では「ベースボール同好会」が結成され、他校との試合が行われていたようです。

正式に学習院野球部として記録に残っているのは、一八八九年(明治二十二年)輔仁会が創立され輔仁会雑誌が創刊されてからであるため、その時を野球部創部の年としております。

その頃は慶応、一高、農学校(後の東農学部)、高等商業(一橋大学)、青山学院、明治学院等と試合を行ったという記録が残されています。

このように、正に日本の野球の黎明期に創部された伝統ある学習院野球部は、その長い歴史の中で日本のアマチュア野球界に多くの名選手を輩出し、また幾多の輝かしい実績を残してまいりました。その中でもとりわけ燦然と輝く二

つの偉大な戦跡があります。

## 一、インターハイ優勝

明治の初めに我が国に紹介されたベースボールが、野球として国民に親しまれるようになり、その後大正時代に入って学生野球を中心に全国的に盛んになりました。特に大正十三年甲子園球場が完成してからは「中等野球」が人気を博しました。

昭和に入ってから東京六大学の最盛期でありましたが、学習院高等科からも多くの先輩が東京六大学で活躍されました。

当時は、この「中等野球」と「大学野球」のほかに、「高等専門学校野球」がありました。これは高等学校(旧制)と高等専門学校が一緒に戦うもので、大正十三年に第一回の「全国高等専門学校野球大会」が開催されております。東京、京都、東北、九州の四帝国大学が主催、大阪朝日新聞社が後援で各帝国大学所在地で予選を行い、地区代表四チームで優勝戦を行うというものでした。

その後紆余曲折があり、昭和十年、高等学校と専門学校が分かれたため、高等学校野球連盟が設立され、インターハイが誕生しました。

学習院高等科は昭和十年の第一回大会より参加していましたが、戦後初の大会となった第九回大会(昭和二十一年)で見事優勝致しました。

当時の様子について、チームの主将であった吉井滋先輩(昭和二十二年高等科卒)が「旧制高校野球部史」に寄稿された追想文を「学習院野球部百年史」から引用させていただきます。

「終戦」旬日を経て復員、真っ先にかけてけた目白台のグラウンドは芋畑と化していた。しかし盛夏の日差しは敗戦も知らぬ気に燦として輝き、周辺の森の樹々はあくまで緑一色の間越しに射し込む陽光は、三島由紀夫いうところの影に愁ひあり、光に悲しみありそのもので、大げさにいえば国破れて山河ありの感があった。



インターハイ優勝後、目白にて撮影  
(左より伊達淳、渡辺(大守)満男、吉井滋、芝盛久)

昭和二十一年、この歳のインターハイは敗戦の痛手より未だ立ち直れなかったこともあって、例年の如く夏ではなく秋に行われることになり、また輸送状況きびしく、全国各地より一カ所集結の全国大会開催は無理となり、関東、関西、東北、九州の四地区予選勝ち抜きチームが京都三高球場で京都帝大主管の下に決勝大会を行った。

ここで当時の学習院のメンバーを列記すると

部長 西崎 一郎先生

監督 瀬川 昌治

三年 吉井(主将)、芝、渡辺兄、伊達

二年 富永、小出、大月、渡辺弟

一年 松平、和波、真田、亀井、岡部、鹿島、

武村、佐久間

マネージャー 松方、益田、国司

東京における予選は松本、成城、都立、成蹊を連破して関東地区優勝、決勝大会は、関西浪高、東北二高、九州福岡高でこの四者により準決勝を行い、浪高を破った学習院と福岡高を破った二高が優勝戦に駒を進めることになった。

優勝戦の学習院のメンバーは次の通り。

(捕) 吉井

(一) 渡辺兄

(左) 芝

(右) 岡部

(遊) 小出

(一) 佐久間

(投) 富永

(三) 渡辺弟

(中) 武村

試合結果は当時高専部門の鳥取高専の山根投手(毎日オリオンズ、元大洋コーチ)と並び称せられた富永投手の予想外の不調で、三回までにつけられた絶望と思われる七点差を後半見事ひっくり返して、結局十四対九で全国制覇を成し遂げた次第である。

往時を顧みれば正に漠として夢の如しであるが、優勝の一瞬、富永投手とかけよって抱き合ったこと、逆転の満塁三塁打を打ったこと等未だ脳裏にはつきりと刻み込まれている。』

戦後第一回のインターハイで見事優勝された先輩方の姿が浮かび上がってくるようですが、正に「健児の意気を君見ずや 我が校の名は学習院」と高らかに歌い上げ、母校の名を世に知らしめた快拳でありました。

## 二、東都大学リーグ一部優勝

インターハイ優勝後、学制改革により昭和二十四年旧制高等科に替り新制大学が設置されました。野球部は昭和二十五年に東都大学リーグに加盟し、秋のシーズンから二部リーグに参加することとなりました。

加盟後四シーズン目の二十七年春待望の一部

昇格を果たしました。その後は強豪校ひしめく一部で善戦しておりましたが、三十三年春に最下位となり芝浦工大との入替戦となりました。一勝一敗一分のあとの第四戦、九回佐藤太美雄選手のダメ押しホームランで辛うじて二部転落を免れました。

そしてその昭和三十三年秋、苦しい一点差の試合をモノにしながら、勝ち点三をあげ最後は、学習院・日大・中央の三校が同率首位となり、東都大学野球史上初の三校による優勝決定戦を行うことになりました。

最初の試合で日大を破った中央が学習院に勝てば優勝という試合で、八回の表まで二対〇と中央にリードを許していた学習院が八回の裏同点に追いつき、そして九回裏にサヨナラ勝ちと正に奇跡的な試合を制し、その結果三校が一勝一敗となり二回目の優勝決定戦を行うことになりました。

### 第一回優勝決定戦

中央 十対四 日大

日大 二対一 学習院

学習院 三対二 中央

二度目の優勝決定戦は神宮球場で行われました。

第一戦で日大に勝った学習院は中央に勝てば優勝という大一番を迎えました。その時の学習院の応援席には皇太子殿下(今上陛下)、義宮



殿下（常陸宮殿下）清宮さまをはじめ六千人を越える大応援団で埋まりました。結果は一点差で惜敗し、三度三すくみとなりました。

### 第二回優勝決定戦

学習院 二対一 日大

日大 六対一 中央

中央 三対二 学習院

夕闇迫る神宮の会議室で関係者が集まり、十一月も半ばを過ぎたしここで優勝は預かりにしようという声も出たが、前年度連盟の理事長をとめた学習院の柳谷武夫野球部長をはじめ学習院関係者の強い希望もあり、最後の優勝決定戦が行われることになりました。

三すくみの三度目、最後の決定戦は学習院・日大戦から始まりました。

先攻の学習院は二回江野沢がレフト線に二塁打、穴沢の中前タイムリーで二点を先取。五回には二死から田辺が右中間に二塁打、小川の内野安打で一、三塁となり、北田の右中間タイムリー二塁打で二点を加え、四対〇とした。学習院の先発井元は速球と鋭いカーブで五回まで日大を二安打と押えていたが、六・九回に点を取られ一点差と詰め寄られたが、力投。最後は逃げ切りました。

再びあと一勝で優勝というチャンスをつかんだ学習院は今シーズン五度目の中央戦に望みました。



東都大学リーグ1部優勝決定直後のベンチ入りメンバー

学習院の初優勝を見んものと駒沢球場に駆けつけた応援席は五千人を超える観衆で埋まりました。

五回先頭のキャプテン田辺が中堅に三塁打を放ち、小幡の犠飛で先ず一点、続く北田、佐藤が連打を浴びせたあと、江野沢がライトスタンドにホームランを打ち、止めをさしました。エース根立は中央打線を押え遂に念願の一部優勝を果たすことができました。

### 第三回優勝決定戦

学習院 四対三 日大

学習院 五対二 中央

なお東都リーグ担当記者による投票の結果、個人賞は次の通りとなりました。

最高殊勲選手 田辺隆一

最優秀投手 井元俊秀

敢闘賞 根立光夫、穴沢健

またベストナインにも学習院から下記の三選手が選ばれました。

ベストナイン 遊撃手 田辺隆一

外野手 北田次平、

佐藤太美雄

その夜目白の町は提灯行列でこった返し、AP電は全世界に学習院の優勝を報道したそうです。

正に豊富な練習量に裏打ちされた勝利への執念、気力、またそれを支えるOB・学校関係者の熱意、それらが一体となって、キラ星の如くプロ候補選手を揃えた強豪校を打ち破ったことは、正に快挙であり、野球関係者のみならず、多くの人々の共感と評価を得ることとなりました。

現在現役野球部は東都大学三部リーグで戦っておりですが、先輩方が築き上げられた伝統の重みをかみしめて、「東都に学習院あり」とその存在感を再度世間に知らしめるべく、更に練習に励み「学習院野球」の復活を目指して欲しいと思っております。



# ETON SUMMER SCHOOL

## イートン・サマースクールに見る 歴史と伝統

女子高等科・女子中等科教諭 高田 智子

今年で六回目を迎えた学習院・イートン・サマースクールは、女子中等科五名、女子高等科十五名、計二十名の生徒が参加し、七月二十一日から八月九日までの十九日間行なわれました。地元ウィンザー城をはじめ、ロンドン市内の名所めぐり、スコットランドへの旅行、また、スケート、ボート、パンティングといったスポーツなど、盛だくさんのプログラムを精力的にこなし、多くの思い出を胸に無事帰国しました。イートン校および英国の歴史と伝統を、その

物理的環境とプログラムの内容の両面から日々感じた十九日間でした。学長室、学寮長室のあるカレッジホールは、一四四〇年の創立当時から石造りの建物。創立者ヘンリー六世の立像を通り、そびえ立つ時計台をくぐって中に入りますと、見事に手入れの行き届いた芝生の中庭があります。その四方を囲む回廊の壁には、ふたつの大戦やフオークランド戦争で犠牲になった卒業生を追悼するブランクが所狭しとはめ込まれています。率先して国に奉仕する人材を輩出したイートン校の誇り、ノブレス・オブリージの象徴といえましょう。刻まれた名簿のひとつずつを見ながら、パブリック・スクールというのはまさしくパブリック・サーピスを改めて実感しました。

回廊の奥にある石の階段は、六世紀を経て方々すりへっています。そこを上ると、ディングホールとはいつても、高い天井と正面のステンドグラス、中二階の聖歌隊席、左右の



イートン図書館

壁にずらりと並ぶ貢献者の肖像画の数々が、重厚な雰囲気を出しています。イートン校のシンボル、獅子と百合の紋章がはめこまれた床どつしりとした木製のテーブル、長椅子。やはり紋章の入ったディナープレート、ジョージ王朝風のカトラリー。こうした環境のなかで、伝統への敬意も自然と育まれるのでしょうか。

寄宿舎では、いくつも見慣れない英単語に出会いました。div roomは勉強部屋、surgeryは保健室。ちよんど、「主管」「告達式」など学習院だけで通用する言葉があるように、イートン校用語というものがあるのです。その数およそ三百。新入生がこれを覚えるのに半年はかかると思います。

さて、日本の中高校生向けのこのプログラムは、もと寮長であったクック先生、生物学担当のランド先生、イートン事務所のハイ氏が中心になって十年前に発足しました。女子部二十名のほか、日本の高校三校から各二十名ずつ、計八十名が参加します。クック先生は地理学専門、日本のある大学で一年間客員教授を務められ、その後モイートン校のサッカー部やボート部を連れて何度も来日なされたことのある親戚。日本の生徒への暖かなまなざしを感じさせる方でした。

研修の中心は、遠足や小旅行を通して英国の歴史や文化を学習することです。ランド先生によるご指導は、経験主義というまさに英国の学問の伝統に貫かれていました。自分の目で見て確かめる、発見する、という観察重視の姿勢が

至る所に感じられるのです。見学先では、毎回ワークシートが配られますが、そこに書かれた質問に答えると、訪問先で見るべきものを見落とさない仕組みになっています。たとえば、大英博物館で配られたワークシートには、「ロゼッタストーンを捜しなさい。それは何ですか。いつできたものですか。何と書かれていますか。なぜこれが重要ですか。ロゼッタストーンの絵を描きなさい。」のように。また、スコットランドでのハイキングでは、「松ぼっくりを拾いなさい。鳥の羽根を拾いなさい。観察した動物を五つ書きなさい。」これらの課題には、ランド先生のいかにも自然科学者らしい視点も感じられます。

このワークシートを完成させるのは容易ではありません。まずワークシートの英語を理解し、方向感覚を研ぎ澄ませて足が棒になるまで歩き、必要あらばしかるべき人を見つけて質問し、英語で答を書き込むわけです。時間の制約もあり、語学力は言うまでもなく、細心の注意力、集中力、そしてチームワークが要求されます。ランド先生は毎回採点、評価してくださり、もっとも優れた解答を書いたグループにはご褒美が与えられました。大学町オックスフォードを訪れた時、女子部のあるグループは「おみやげを買う暇もなかった」ほど熱心に取り組み、その努力の甲斐あって最優秀賞に輝きました。スポーツの重視もパブリック・スクールならではの伝統でしょう。一日の見学で疲れて帰ってきた後も、テムズ川でボートを漕いだり、あ

るいは暗くなるまでサッカーに興じたり。最終日には、青空の下、カレッジ・フィールドと呼ばれる芝生の運動場で綱引き、スプーン競争、二人三脚、後ろ向きの徒競走。笑いど歓声。イートンらしい締めくくりでした。

この夏季研修実施にあたって、説明会や事前指導など、多くの先生方にお力添えいただきました。また、企画部の皆様には終始ひとかたならぬお世話になりました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

### イートンサマースクールという宝物

女子高等科二年 桑野 麻衣

約三週間のイートンでの生活は本当にあつという間であった。一日一日スケジュールがぎゅしり詰まっっていて、常に何か新しい事を発見し確実に得ていくという毎日は、ただただ楽しくてまた想像以上に充実した日々だった。その多くの発見の中でも最も心に残った二つの事を紹介しようと思う。

私が初めに驚いたのはイートンの町の風景である。私はイギリスという国に対し、近代的で発展している大都市が多いというイメージを持っていた。しかしそんな先入観にとらわれていたのも束の間であった。成田を出発し飛行機に乗ること十二時間、イートン近くのロンドン郊外にあるヒースロー空港に着陸するという時に私達は機内の窓から見下ろした光景に感動し

た。緑が非常に多く、そして沢山の赤いレンガ造りの可愛らしい家が綺麗に配置されていた。異国情緒漂う、日本では見られない光景を目の当たりにし、驚きながらも本当に感動した。あの景観はずっと私の中に残っているだろうと思う。それ以外にも大都市ロンドンでは新しい建物が並ぶ中にも多くの古い建築物がすんなりと何の違和感もなく存在していた事にもとても魅かれた。

次の新発見はイギリス人の気質におけるものだった。私はイギリス人に対しては明るさの中にも何処か上品で近づきにくいという印象が強く、陽気で底知れぬ明るさをもった雰囲気は想像できなかった。しかし実際はイートンやバス



スクールヤード

を言っ場  
の雰囲気を作  
てくれたので  
かなり印象が  
変わり、初め  
何が構えてい  
たものがあつ  
たがそれは全  
くなくなつ  
た。  
あの十八日  
間で私は良い  
意味で変われ  
たと思う。行

く前は英語を話す事を義務として捉えていた。が、実際行ってみると自分の英語が通じる楽しさや外国の人と会話、コミュニケーションをとれる事の喜びを知り英語を話す事に抵抗はなくなり、自ら接する事ができた。それは今後も持続していきたいと思う。

また今まで以上に「人間」が好きになった。「人」と接し会話する事によって新しい人間関係が生まれていく素晴らしさをイギリスで改めて実感した。将来、性別や年齢、国籍などの壁を乗り越え「人間」という尊い存在を愛せるようになりたいと思った。

たったの三週間ではあったが、これ程多く大切な事を学んだ旅行は初めてかもしれない。この旅行では今最も私達に必要とされるであろう、協調性や国際的意識、英語力などを得る事ができ、また考えさせられたりもした。

この旅は私にとって一生の宝物となった。この夏の経験を決して無駄にせず、様々な場面において生かしてゆこうと思う。

最後にこのような素晴らしい機会を与えて下さった方々、生活全般においてサポートして下さった人々に感謝したい。

## 忘れられない夏

女子高等科二年 河村 古都

一言でいうと、「とても楽しかった」に尽きる。一つは伝統あるゴドルフィンハウスでの生



授業風景

は書く時間よりも話す時間のほうが長く、賑やかで新鮮だった。日常のアクティビティや名所観光などもその一つである。そのほか書き出したら止まらなくなってしまうほどある。

嬉しかったこともたくさんある。まずは郵便局へ行って葉書を出したとき。些細なことではあるけれど、自分の英語に自信のない私はちゃんと通じたことが嬉しかった。そしてイートニアンとも日が経つにつれ、会話ができるようになったことも。スコットランド小旅行ではウールセンターで毛糸を作った。おばあさんが丁寧に教えてくださって、所々太かったり細かったりしたが、よくできていると誉めてくださった。こんな体験は絶対日本ではできないと心から思った。

感動したといえ、やはりミュージカル『ラ

イオンキング』だろう。ストーリーそのものも感動だが、生で見る迫力は格別であった。もちろん英語なので、細かいところまでは理解できなかった。ジョークを言っている場面などは周りが笑っているから面白いことを言ったのだなあと思い、悔しい思いをした。もつと英語を習得したいと思わずにはいられない。

送別会では運動会のために練習した『ソーラン節』を踊った。音楽がなくて、手拍子で踊ったが、会場は盛り上がり過ぎていた気がする。こちらとしては、間違えてはいけないという気持ちと恥ずかしい気持ちが入り混じり、微妙な心境であった。なんとも苦い忘れられない思い出となった。

一緒に生活した金蘭千里高校にはたくさん友達ができ、別れがつかかった。しかし今は世界に通じるメールがあることに感謝している。しばらく会うことはできないけれど、メールを送って毎日楽しんでる。イートニアンのメールはもちろん英語なので、大変ではあるが、とても楽しい。

十八日間の楽しい旅行は長くて短かった。自分で計画を立ててイギリスへ旅行に行ったらこれほどイギリスを満喫することはできなかったと思う。本当に充実した時間を過ごすことができ、計画してくださった方々に感謝でいっぱいである。

イートンサマースクール2001に乾杯！

PS..イギリスへ行くとき、チェックのスカートは必需品である。どこへいっても好かれる。

## 「初等科・幼稚園の学校週五日制が

平成十四年度より

本格実施される」

学校週五日制については、初等科では、昭和五十七年度より月一回の土曜日を休みとする試行を実施し、平成二年度から月二回の土曜日を休みとする試行に入りましたが、このたび

の国の新教育課程の実施と完全週五日制の実施に伴い、平成十四年度から学校週五日制を本格実施するものです。また、幼稚園は、初等科同様、昭和五十七年度より月一回の土曜日を休みとする試行を実施し、平成二年度からは毎週土曜日を休みとする学校週五日制の試行に入っていました。このたびの国の完全週五日制の実施に伴い、平成十四年度から制度として学校週五日制を本格実施することにするものです。

なお、初等科・幼稚園では、学校週五日制の本格実施にあたり、新しい教育課程（幼稚園は平成十二年度より実施）を踏まえて、児童・幼児の教育、指導を考えています。

初等科

初等科長 斉藤 進

初等科では平成十四年度から、毎週土曜日を

休みとする完全学校週五日制を実施することにいたしました。

五日制の下で教育を行うために新指導要領では教科の授業が縮減され、教科によって差はありますが、教育内容もそれに伴い削減されています。

この現状を踏まえ、初等科では各教科とも厳選された内容を効率的に教えることよって基礎・基本を確実に身に付けさせ、なお且つ学力を低下させないよう指導していきます。

今回の指導要領の改訂では「生きる力」の育成を目指し、「総合的な学習」の時間が設定されました。これに伴い小学校では三年生から週三時間程度が配当されています。

初等科では三時間の配当を三つに分けて指導することにいたします。

国際理解の一環として英語教育に一時間、情報教育として一時間、総合（従来の教科をまたがるような課題に関する学習が行える）として一時間。

これからも限定された時数の中で分かりやすい授業を展開し、一人一人を大切にしたいと細かな指導をしていきたいと思っています。

幼稚園

幼稚園長 小山 久子

幼稚園では、「学校週五日制平成十四年度本

格実施」に先立ち、既に試行という形で週五日制を導入しています。

週六日制であった頃に比べて、通園による園児及び送り迎えの父母の負担が軽減され、心身にゆとりが生まれています。その結果、欠席者が減少し、のびのびと落ち着いた園生活が送れるようになってきました。

人間にとって、「家庭の味・温もり、家族の絆」は、生き生きとした社会生活を送る上で、必要不可欠です。それらを培い、心にしつかりと根付かせるためにも、小さい時期には特に、家庭でのゆったりした時間が必要です。土曜日の連休を家庭で家族と共に過ごすことにより、父親との交流が増え、行動パターンも豊かになり、各々の家庭の味が身に付くことと思います。それを土台に子ども達は、幼稚園で社会性を身に付け、成長しています。家庭と集団社会としての幼稚園とで協力し合って、子ども達（将来の社会人）の心が豊かで真っ直ぐに育つことを願い、心身のバランスのとれた教育を更に充実させてゆく所存です。





## 平成14年度の納付金について

このたび、本院では10月の理事会・評議員会の議を経まして、平成14年度の学生生徒等納付金について、大学院博士後期課程の一部を除き、改定を見送ることを決定いたしました。その趣旨等も含め以下に概略をご説明させていただきます。

本院の納付金につきましては、これまで各学校の収支状況や過去・現在・未来の事業計画に基づく資金需要などを総合的に判断し決定してまいりました。国立大学の独立行政法人化など、学校経営を取り巻く内外の環境変化のスピードは目を見張るものがあり、中長期的には本院の抱える財務的課題の解決の糸口が見出されているわけではありませんが、来年度に向けては、昨今の社会経済環境の悪化や学費負担者の負担軽減の視点から、今まで以上に、一層の支出削減、経費見直しを優先することとして、納付金改定をしない旨の決定をした次第であります。

### 【大学の納付金について】

大学においては、平成10年度から新入学生のみを改定の対象として、現行の漸増制をベースとしたフラット方式を導入してきました。教育研究環境面、学生サービス面のいづれをとって

も、情報化推進に対応した教室整備や部会室棟整備等を手はじめとして、近年飛躍的な整備が進んできており、学生数の漸減という条件のもとでは、継続的な納付金改定の政策が求められるわけですが、一方でデフレスパイラルとも称される経済環境の長期的悪化傾向および授業料延納者の増加や奨学金需要の増大という現象の顕在化を背景として、学費負担軽減への配慮や他校との競争力への配慮も強く求められる状況になってきており、支出抑制策の一層の推進を前提として改定見送りを決定いたしました。なお、平成10年度以降入学の在校生につきましては、「入学後4年間」の納付金を改定しないものとして明示してきましたが、今後は入学年度の納付金が卒業時まで適用される原則といたします。

### 【大学院の納付金について】

博士後期課程の納付金のみ改定となります。これは、本学の前期課程からの進学者については前期課程の納付金額を後期課程においても適用する原則のためです。そのため本学前期課程の入学年度や他大学の大学院前期課程からの入学者などの要件によって納付金が異なることとなり、詳細は別表1のとおりです。

### 【女子大学の納付金について】

平成10年度の開学以降完成年度となる平成13年度までの間は、新入生・在校生を含め納付金を据え置く方針としてきました。大学同様平成

14年度に関しては総合的な視点から改定を行いません。

なお在校生については、大学同様入学年度の納付金が卒業時まで適用されることとなります。

### 【高等科から幼稚園の納付金について】

高等科から幼稚園におきましても、新校舎・園舎の建築、既存の施設設備の整備更新、情報化対応のための基盤整備が急ピッチで進展してまいりました。今後も各学校の財務的な自立性を高めていくことは不可避の問題となっておりますが、納付金改定に依存するのではなく支出抑制策を推進し収支状況の改善に努めていくことを優先的課題として改定を見送ることといたします。

今後も総合学園学習院としての教育研究体制の整備・充実に果たしていくためには、安定した財政運営を実現していく必要があります。短期的な視点にとどまることなく、中長期的な視野に立った運営計画を推進していく所存であります。すでに取り組みを始めている部分もありますが、引き続き経営の合理化、経費の節減、効率化に努め財務体質の改善に取り組んでいく所存であります。参考までに近年の本院の財務状況データを別表2に掲げております。厳しい経営環境の時代に向かっていきますが、今後とも本院の教育事業運営に格段のご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。(財務部)

別表 1 平成14年度学生生徒等納付金（実験実習費を除く）

単位：千円

区 分		平成14年度納付金				
		入学金	授業料	維持費	計	
大 学 院 博 士 後 期 課 程	法学研究科 政治学研究科 経済学研究科 経営学研究科	下記以外の新入生	150	456	176	782
		H13本学前期課程入学新入生		480	186	666
		H11本学前期課程入学新入生		430	166	596
		H10本学前期課程入学新入生		410	159	569
		在校生	入学年度により異なる			
	人文科学研究科	下記以外の新入生	150	456	172	778
		H11本学前期課程入学新入生		430	164	594
		H10本学前期課程入学新入生		414	159	573
		在校生	入学年度により異なる			
		自然科学研究科	下記以外の新入生	150	622	176
	H13本学前期課程入学新入生			650	184	834
	H11本学前期課程入学新入生			596	167	763
	H10本学前期課程入学新入生			574	160	734
	在校生		入学年度により異なる			

改定となる大学院博士後期課程のみ掲載

博士前期課程を修了し直ちに後期課程に進学する者は、入学金が免除となる

別表 2 平成2年度からの学校法人学習院の消費収支の推移

単位：千円

	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
消費収入の部											
学生生徒等納付金	8,986,679	9,324,961	10,257,787	11,261,384	12,090,306	12,525,074	12,364,923	12,384,662	12,237,367	12,243,337	12,776,749
手数料	762,542	852,083	791,629	679,242	812,639	886,023	833,847	878,099	797,943	803,520	752,349
寄付金	352,068	915,705	1,265,891	1,610,286	1,306,469	915,034	996,252	944,679	916,135	722,091	760,186
補助金	1,943,076	1,982,536	1,970,620	1,990,616	2,131,989	2,192,468	2,134,311	2,101,345	2,833,619	2,548,485	2,381,260
資産運用収入	1,999,406	2,110,044	1,490,462	1,137,250	928,643	664,735	546,676	577,205	541,543	410,601	436,301
資産売却差額		110			552,312	952,163	1,150,003				
事業収入	221,802	237,578	276,139	302,442	256,684	227,675	261,875	495,838	452,477	508,589	489,655
雑収入	269,712	456,056	481,421	333,609	620,565	352,819	565,797	687,332	591,414	416,039	649,190
その他収入小計	5,548,606	6,554,112	6,276,162	6,053,445	6,609,301	6,190,917	6,488,761	5,684,498	6,133,131	5,409,325	5,468,941
帰属収入合計	14,535,285	15,879,073	16,533,949	17,314,829	18,699,607	18,715,991	18,853,684	18,069,160	18,370,498	17,652,662	18,245,690
基本金組入額合計	1,200,487	2,724,902	4,125,531	3,093,126	4,378,294	5,000,982	4,462,804	3,968,218	2,884,605	2,568,629	1,986,971
消費収入の部合計	13,334,798	13,154,171	12,408,418	14,221,703	14,321,313	13,714,999	14,390,880	14,100,942	15,485,893	15,084,033	16,258,719

消費支出の部											
人件費	8,472,273	9,087,918	9,241,434	9,433,315	9,856,951	9,434,379	9,870,552	10,142,656	10,254,896	9,907,059	10,426,794
教育研究経費	2,810,083	2,840,221	3,031,987	3,622,650	3,801,892	3,872,357	4,157,717	4,514,221	4,874,711	4,788,925	4,981,334
管理経費	780,608	795,029	984,063	949,778	884,849	824,184	920,421	1,085,324	907,170	1,066,590	991,953
借入金等利息	79,178	50,665	85,783	271,474	279,527	278,812	232,034	183,360	152,201	136,283	104,302
資産処分差額	133,991	292,030	53,984	38,120	29,958	6,339	27,855	18,306	740,086	71,709	132,928
徴収不能引当金繰入額									2,440		
消費支出の部合計	12,276,133	13,065,863	13,397,251	14,315,337	14,853,177	14,416,071	15,208,579	15,943,867	16,931,504	15,970,566	16,637,311

当年度消費収支超過額	1,058,665	88,308	988,833	93,634	531,864	701,072	817,699	1,842,925	1,445,611	886,533	378,592
前年度繰越消費収支超過額	7,403,573	8,462,238	8,550,546	7,561,713	7,468,079	6,936,215	6,235,143	5,417,444	3,574,519	2,128,908	1,242,375
翌年度繰越消費収支超過額	8,462,238	8,550,546	7,561,713	7,468,079	6,936,215	6,235,143	5,417,444	3,574,519	2,128,908	1,242,375	863,783

## 平成13年度主要国家試験合格者

平成13年度の大学在学学生・卒業生の合格者数は次のとおり。

司法試験	3(5)名	裁判所事務官 種試験	5(1)名
公認会計士試験	7(3)名	国税専門官試験	4(2)名
国家公務員 種試験	5(1)名		

( ) 内は12年度合格者数

## 平成14年度 学生・生徒・児童・園児（一般入試）の募集について

### 大学

学 部	学 科	募集人員	試験日	合格発表日
法学部	法学科	262	2月15日	2月22日
	政治学科	250		
経済学部	経済学科	270	2月14日	2月21日
	経営学科	270		
文学部	哲学科	90	2月12日	2月19日
	史学科	87		
	日本語日文科	114		
	英米文学科	121		
	ドイツ文学科	54		
	フランス文学科	88		
理学部	物理学科	47	2月13日	2月20日
	化学科	47		
	数学科	64		

### 女子大学

学 部	入試区分	学 科	募集人員	試験日	合格発表日
国際文化交流学部	A方式	日本文学科	70	2月2日	2月7日
		国際コミュニケーション学科	70		
	B方式	日本文学科	30	2月20日	2月25日
		国際コミュニケーション学科	30		

### 各科および幼稚園

学 校	募集人員	試験日	合格発表日
高等科	約 10	2月14日	2月15日
中等科	約125	2月3日	2月4日
女子中等科	約120	2月1日	2月2日
初等科	男女各40計80	11月1日-5日のうち1日	11月7日
幼稚園	男女各26計52	11月6日-11日のうち1日	11月13日

(注意) 幼稚園・初等科はすでに募集を終了しております。

### 上記以外の入学試験等について

大学..... 大学院入試、推薦（指定校制・公募制）入学、帰国生入試、社会人入試（文学部全学科、理学部数学科、大学院経済学研究科・経営学研究科）、外国人入試（文学部 哲・史・日）、編入学（学士）入試（全学部）編入学（3年次）入試（文学部全学科）編入学（高専出身者対象）入試（理学部全学科）

女子大学..... 推薦入試（A/B）、外国人留学生入試、海外帰国生徒入試、社会人入試、社会人編入（3年次）入試、編入（3年次または2年次）入試

中等科、女子中等科... 帰国生入試

(詳細については紙面の都合により割愛させていただきます。平成14年度については、ほとんどが募集を終了しております。)

### 入試の詳細については下記にお問い合わせください

大学・幼稚園	〒171-8588	東京都豊島区目白1-5-1	☎03-3986-0221（代表）
高等科・中等科	〒171-0031	東京都豊島区目白1-5-1	☎03-3986-0221（代表）
女子大学	〒162-8650	東京都新宿区戸山3-20-1	☎03-3203-1906（代表）
女子中等科	〒162-8656	東京都新宿区戸山3-20-1	☎03-3203-1901（代表）
初等科	〒160-0011	東京都新宿区若葉1-23-1	☎03-3355-2171（代表）



## 学長就任にあたって

永田 良昭

私にとつての大学激動時代は、大学紛争から始まりまふ。中央教室の、学生諸君のいうところの団交を外に、東都大学野球二部優勝を祝う太鼓の音と歌声が鳴り響いていたことがありました。今にして思えば、この嵐はさまざま矛盾の表現であつたとしても、大学と大学生が恵まれた者として存在した時代のものであつたようです。

私の経験した第二の嵐は、大学設置基準の改正に対して本学は如何に対応するかという問題です。その結果はまだ評価の段階ではないように思います。

しかし、個人的な感想を述べるなら、設置基準の大綱化によつて各学部、学科がそれぞれの分野の性格を反映させた教育の体制を編成する裁量の範囲が大きくなることで、学部、学科の特色が鮮明になつたこと、とりもなおさず類似した学科、学部名を名乗つていても、自ずその大学の特色がどこにあるかが問われるように

なつたこと、これは大きな変化であると思われまふ。

何が変わらないか。世間にはさまざまに趣向をこらした名称を名乗る学科、学部が現れました。それに対する評価も尚早であるでしょう。しかし、そこでの教育の実情を耳にする限りでは大学教育の基本となる内容に関してあつと驚くような新機軸などはないことが明らかになりつつあるように思われることです。

大学は今、また新たな激動の中にいると思われまふ。大学存立の基盤となる経営的な危機の招来を含むという意味で、まさにこれまでにない激動であると思ひます。定員割れの大学があることは今や周知の事実です。

その中で、本学は優れた学生諸君が競つて入学を志す大学であるべきことは間違いないことでしょう。しかし、今必要なことは、こうした抽象論ではなく、大学の特色をどのように具体的な姿として表すべきか、経済的な不況の中であればこそ内容のある高学歴への志向が強まることに対して、本学の大学院教育をどのように位置づけるのか。完結するものである学部教育の位置づけをどうするか、私たちは、内外の叡智を集めて、あるべき本学の姿を見通す必要があると考へます。

あるべき姿を具体化する過程は、それぞれの分野が、世に送り出すべき学生の姿をその特質に応じてどのように描くかによつて、単にカリキュラムの改編のみでなく、研究科、学部、学科の編成の再検討

を試みる必要を生じさせるかもしれないと思ひます。

こうした個々の分野での特質の表現に対して、ユニバーシティとしての総合の機構がどのような形で有効に働く仕組みをつくりあげるかも大きな課題になると考へます。

教育という営為には、未来を先取りする部分と、過去の成果をきちんと検証していく部分の双方が車の両輪のように均衡がとれていることが必要であると思ひます。

受け継ぐべき伝統をどのように具体化するか、未来を拓く人々をどのように育てるか、教職員、卒業生、父母の方々のご指導、ご支援を切に願ひます。次第です。

## 大学長に

### 永田良昭教授

小倉芳彦学長の任期満了にともなう学長選挙が実施された結果、永田良昭文学部教授（心理学科）が新大学長に就任した。任期は平成十三年十一月十一日から四年間。

同教授は、昭和三十四年京都大学文学部哲学科心理学専攻を卒業、同大学院博士課程単位取得、京都大学文学部助手等を経て、昭和四十八年四月学習院大学文学部助教授として着任後、昭和五十四年に教授。学生部長、心理学科主任、文学部長等を歴任、このたび大学長に就任した。



# GAKUSHUIN NEWS



## 役員人事

就任監事

池田 浩規

(校友会副会長 ㈱弘済出版社代表取締役社長)

(任期平成十三年九月二十六日から平成十五年五月三十一日まで)

近衛 庸子

(社常磐会長)

(任期平成十三年九月二十六日から平成十四年九月六日まで)

(以上平成十三年九月二十六日付)

退任監事

東園佐和子

(平成十三年七月二日付)

## 教職員の表彰・受賞

教職員氏名(受賞時の所属・役職を付した)以下は 表彰・受賞の名称  
受賞年月日 授与者 表彰・受賞の理由の順に掲載しました。

〔初等科〕

高橋義雄(初等科長)

教育研究表彰

平成十二年十一月七日

財団法人日本教育研究連合会

小学校算数科の教材開発と指導方法の改善

## 専任教員著作紹介

二〇〇〇・一〜十二

初等科

大澤隆之(等著)『第4学年/授業の展開』新・算数授業講座 東洋館出版社

大澤隆之(等著)『算数が主役の総合的な学習実践プラン集 高学年編』明治図書出版

大澤隆之(等著)『子供の意欲を倍増させる算数導入課題アイデア集 高学年編』明治図書出版

岡安 寛(等著)『楽しい算数的活動の授業』東洋館出版社

岡安 寛(等著)『算数的活動で授業を楽しく』東京書籍

盛山隆雄(等著)『算数が主役の総合的な学習実践プラン集 中学年編』

## 明治図書出版

梅田芳樹 盛山隆雄(共著)『素敵なクラスをつくるちょっとしたコツ 学級経営12か月 低学年』東洋館出版社

## 第五十六回学習院公開講演が宮崎市で開催される

第五十六回学習院公開講演が平成十三年九月二十二日(土)に宮崎市のワールドコンベンションセンターサミットにおいて開催されました。

当日の講演は、前半の部でNHK解説委員・学習院女子大学特別専任教員の平野次郎氏が「日本はどこまで変わったか」と題し、一九八〇年代の日本の経済成長期、九十年代に入って米ソの冷戦終結などの世界情勢の変化に対応できず、九十年代半ば頃から始まった日本の経済成長率低下、そして最近の雇用形態の変化や情報化の進む中で日本のIT戦略の取り組みなどを解説、後半の部では華道家・学習院女子大学客員教授 池坊由紀氏が「日本の美と心」と題し、日本伝統の美は、西洋の美意識と違い自然と一体化された中から豊かな美を表現し創造する。現代は外見の美意識にとらわれる中で、このような日本伝統の美をこれからも大切にすることを必要があるとの講演がありました。

講演会場は、天候が良いこともあって多くの市民の方々が来場し会場は満席(約六〇〇名)になりました。引き続き、学習院、学習院大学、学習院女子大学等の近況を報告する「卒業生・在学生父母の集い」、学習院役員の方々と宮崎校友会、在学生父母との親睦、交流を図る「学習院・宮崎校友会共催合同懇親会」が盛会に行われ無事終了いたしました。

## 血洗の池 整備工事が完了

今年の六月より水質浄化と周辺整備のための工事を始めておりました血洗の池ですが、十一月六日に完了し翌日より池周辺の散策ができることとなりました。

今回の整備工事では、「自然の中の休息と憩いの場としての再生」という整備方針のもと、地下水の枯渇と雨水



講演者 池坊由紀氏

(泥水) 流入等による水質汚濁や、護岸の崩れ等による周辺環境の悪化を改善するために、池の浚渫(水深約50cmを最大百五十 cm)に、護岸の整備、水質浄化装置の設置、水生植物や地被

類等の植栽、八つ橋(木製)の架橋、防犯灯の設置などを行ったものです。二、三年後には植栽植物や周辺樹木が繁茂し、より良い環境となることと思われれます。

## 「日欧文化交流に関する国際シンポジウム」の開催

運営委員長 女子大学教授 永井和子

女子大学は平成十二年度につき第二回目の国際シンポジウムを十三年十月十三日、十四日に開催しました。今回はテーマを「日本語・日本文化のグローバル化」に絞って、協定校を中心とした外国の日本文化研究者をお招きし、多数の参加者とともにすべて「日本語」で活発な議論を尽くした豊かな二日間でした。

十三日の午後は、独・ハンブルク大学のシュナイター氏と、学習院大学においても教鞭をとられた小林善彦氏の講演に始まり、深い思索と豊富な経験に支えられたその内容は本シンポジウムの理念の原点となりました。ついで行われた瑞穂雅楽会の見事な舞と奏楽は、まさに古代におけるグローバル化の体現とも言つべきでしょう。十四日のシ

ンポジウムに参加された方々は、ポランド・ワルシャワ大学の岡崎恒夫氏、英・リーズ大学のハッチンソン氏、独・ミュンヘン大学のフォルマー氏、ハンガリー・ブダペスト商科大学のセーカーチ氏、チェコ・パラツキー大学のフランデルカ氏、本学の徳田和夫氏、平野次郎氏で、いずれも日本文化の抱える問題を将来に向けて鋭く提示されました。折しも世界情勢は緊張の様相を示した時機に当たり、それ故に一層「文化」の存在と生身の人間が集う交流の意味、グローバル化の存否や限界の問題も、安易な表面には留まらぬ鮮烈な問題意識の核となし得たと思います。

「国際文化交流」の深化を目指した構想を、本シンポジウムを含めて学校法人学習院が重点施策の特別枠

訃報

野村寛子(元女子学習院助教)

平成十三年三月五日逝去

享年九十四歳

予算をもってご支援下さったことに  
対し、深甚の感謝を申し上げます。



学習院生涯学習センター春の講座  
総合パンフレット請求受付中！  
来春、9シーズンを迎える生涯学習センター春期講座は、4月中旬から7月下旬にかけて、およそ一〇〇の講座を順次開講予定。  
”日本を読む” ”世界を知る” ”みる・感じる・つくる” ”じぶんを見つめる” ”子育て応援プログラム” ”暮らしを彩る” ”初歩から学ぶ外国語” ”実務・実用プログラム” ”資格試験対策プログラム” ”いずれも皆さんの知的好奇心を刺激してやまない9つのカテゴリーに分けられた多彩なプログラム。昼間の講座の他、お勤め帰りにも便利な夜間や土曜講座も充実です。受講資格は皆さんの「学びたい、知りたい」という意欲だけ！年齢・性別・学歴にかかわらず、どなたでも受講いただけます。講座詳細を記した総合パンフレットは、2月下旬にも完成します。新規にパンフレットご希望の方は、センター事務局までお気軽にご連絡ください。なお、過去にご請求頂いている方には、出来上がり次第自動的に発送いたします。いずれも送料は無料です。(ご連絡先：学習院生涯学習センター Tel.03-5992-1040)  
<http://www.gakushuin.ac.jp/open/>

# マハー チャックリー シリントーン タイ王国王女殿下への 学習院大学名誉博士号・学習院栄誉章贈呈式および同王女殿 下講演会が開催される

本年九月十九日（水）本院において、タイ王国シリントーン王女殿下に対し学習院大学名誉博士号（経営学）・学習院栄誉章が贈呈され、これを記念してのシリントーン王女殿下の講演がありました。

シリントーン王女殿下は、一九七六年にタイの名門大学チュラロンコン大学文学部を首席で卒業された後、言語学、芸術、歴史、教育、医療、食糧問題、宇宙開発など幅広い分野で研究および実践活動をされる中で、すでにその学問的業績については内外から高い評価を受けており、諸外国の大学から名誉博士号を授与されておりま

す。なお、今回の学習院大学名誉博士号につきましては、アメリカのフォード元大統領、イギリスのサッチャー元首相などに贈られており、シリントーン王女殿下が六人目となります。

当日は学習院創立百周年記念会館正堂に



島津院長より学習院栄誉章贈呈

おきまして、内野崇 経営学研究科委員長によるシリントーン王女殿下の紹介に始まり、小倉芳彦 学習院大学長による学習院大学名誉博士号の贈呈、島津久厚 学習院長による学習院栄誉章の贈呈がありました。引き続き、約七百五十名の聴衆を前にシリントーン王女殿下の英語による講演がありました。

その講演の中でシリントーン王女殿下は、タイ王室と日本の皇室の友好関係や王女殿下自身の数度にわたる訪日の経験などについて話されました。最後に、花束・記念品の贈呈、賀陽治憲 学習院校友会会長による学習院校友会特別会員証の贈呈があり、無事贈呈式・講演会は終了いたしました。



小倉大学長より大学名誉博士号贈呈



講演をされているシリントーン王女殿下

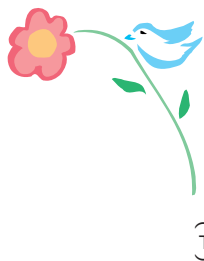
## 編集後記

上記記事にて記載しましたが、タイ王国シリントーン王女殿下に六人目の学習院大学名誉博士号が贈られました。この「学習院大学名誉博士号」は、国の内外を問わず、学問・文化の向上発展に顕著な功績があると認められる者に学習院大学より贈られるものです。

第一号は昭和五十四年（一九七九年）にフォード前アメリカ合衆国大統領に贈られており、ついで

ヴァイオリニスト・指揮者の故ユーディ・メヌーイーン氏（一九八七年贈呈）、フンボグドゥティルアイスランド共和国大統領（一九九一年贈呈）、サッチャー前英国首相（一九九三年贈呈）、ブットーバキスタン・イスラム共和国首相（一九九六年贈呈）といった著名人が名を連ねております。

今回のシリントーン王女殿下への大学名誉博士号の贈呈は、わが国におけるシリントーン王女殿下に対する最初の名誉学位の贈呈であり、また、ひろく日本とタイとの学術文化の交流の発展に寄与することが期待されるものです。



(T)



学習院  
21世紀計画

学習院広報 第六五号

平成十三年十一月一日

発行 学校法人学習院 総務部広報課

〒171-8588 東京都豊島区目白一丁目五番一号

電話（〇三）三九八六（〇二二）代

掲載記事の無断転載を禁じます。

一頁 カラー写真 新たに整備された「血洗の池」